

堺自然ふれあいの森

ニュースレター 第20号

発行：平成22年3月 OSS・EPRグループ(指定管理者)

生き物が棲みやすい環境へ・・・ 地域の小学生などとの協働で里山保全に取り組みました。

■堺自然ふれあいの森では、周辺環境との連続性を踏まえながら自然環境の保護・活用・復元を図る里山の保全を目指して、ススキ原の再生や多様な樹林の整備など、様々な生物が生息できる空間づくりに市民協働で取り組んでいます。また、従来の生息環境の整備だけでなく、より積極的な生物保全を進めています。

■今年度から堺市立上神谷小学校(以下、小学校とする)と堺市環境総務課からの提案を受け、園内の溜め池を活用したカワバタモロコの保護・増殖の取り組みを始めました。放流場所は、トンボなどが生息しやすい水辺環境を目指して、周辺樹木の間伐や堆積物の除去などを実施している「かがみ池」を選びました。なお、カワバタモロコは園内に生息していないため、小学校と環境総務課が協働で継続繁殖させた個体を提供してもらいました。



▲上神谷小学校で、4年以上続く繁殖の取組み。



▲落ち葉をさらうなど、「かがみ池」の環境を整備。

■昨年の夏ごろから関係各所と連携して放流に向けた準備を進め、平成21年12月10日(木)には池の中に溜まった落ち葉や枝をさらう作業を小学校の6年生やNPO法人いっちゃんクラブと協働で行いました。平成22年2月9日(火)の放流には、NPO法人いっちゃんクラブ、環境総務課、公園緑地整備課と指定管理者が立ち会い、繁殖に取り組んだ小学生が71匹の稚魚を放流しました。



▲生徒たちによる放流。

公園の新たな役割

■身近な公園での希少種の保全は、時には盗掘や安易な持ち込みを招く恐れがあります。しかし、地域の皆さんが保全の意味を理解し、共に守り育てていくには絶好の場所ともなります。これからの公園には、まとまった緑を持つ安定した空間として、「環境教育の場」の提供だけでなく、地域環境の形成や希少生物の保全など新たな役割が求められています。

カワバタモロコ



溜め池などに生息する体長3～6cmの淡水魚。市内では南部丘陵に僅かに生息するだけとなり、「堺市の保護上重要な野生生物(堺市レッドリスト)」では、ゲンジボタルよりも上の最重要保護種(Aランク)に選定されています。

平成18年度に策定した「森の整備計画」の見直しと拡充を堺自然ふれあいの森運営会議(NPO法人いっちんぐクラブ、大阪府立大学、指定管理者、堺市)で図っています。今年度、見直したものや新たに計画した場所の一部を紹介します。

1 里山風景区

繁茂したネザサや斜面の林を整備して里山的な空間を復元しました。整備後は、広場として開放し、春にはコバノミツバツツジやモチツツジが咲き、秋には落ち葉遊びをする子どもたちの歓声が響くなど憩いの場所となっています。



平成21年の様子
▲放棄されて、数十年経過した田畑で、ササ類や雑木がびっしりと生い茂り、人が立ち入るのが困難な状況でした。

現在の様子



▲林床まで光がとどき、コバノミツバツツジの花が目立つ、明るい林になっています。



▲イベントを通じて、市民の方々にも、落ち葉遊びに参加してもらつなど、継続的な手入れをしています。

3 ネザサ試験区

園路脇の鬱蒼と茂っていたネザサを刈取り、開放的な空間を作るとともに、野鳥や小動物など多様な生き物が訪れるネザサ原の創出を

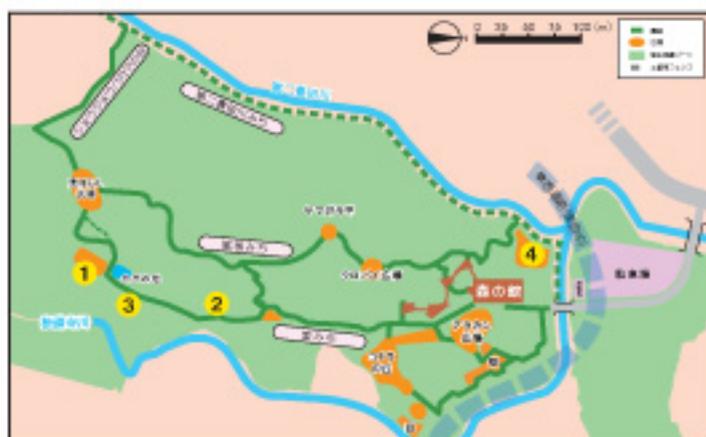


平成21年の様子
▲鬱蒼としていて、どんな生き物があるか、確認できません。

現在の様子



目指しています。ネザサの刈取り時期を調整するなどの管理を行っています。



2 アカマツ再生区

ふれあいの森では少なくなったアカマツが好む環境を目指し、樹木の伐採や腐葉土の除去を行っています。



平成21年の様子
▲常緑樹やシダが繁茂し、鬱蒼とした印象を受けます。

現在の様子



自然再生によるマツ林の復元を目指し、播種による実生の育成にも取り組んでいます。

4 ソーン10

森の館の北西にある野原。刈り残したネザサで囲まれた空間は、夏は草地、冬は広場と夏冬で雰囲気が変わるように手入れを行っています。



平成21年の様子
▲30年以上も放置され、人の背丈以上のネザサがびっしり。

現在の様子



野鳥などがよく訪れる場所にあるため、ネザサの刈取り後は、あまり手を加えない維持を行っています。

平成21年5～7月に第1期「里山保全ボランティア養成講座」を開催しました。この講座は、里山の保全や復元に関心を持つ方を対象に、堺市内の里山においてボランティア活動を始めるとききっかけとなるよう開催しました。当園で活動しているNPO法人いっちゃんクラブの協力や大阪府立大学の増田教授が特別講義を行うなど、より実践的に学べる講座としました。また、第2期の講座を平成22年1～3月に開催しました。修了者の多くがNPO法人いっちゃんクラブに入会するなど里山の保全に取り組んでいます。



《講座スケジュール》

- 第1回 オリエンテーション /
里山保全の取り組み①
- 第2回 安全管理 / 農作業体験①
- 第3回 農作業体験②
- 第4回 樹林管理体験
- 第5回 特別講義
「里山保全と公園の役割」
- 第6回 生き物調査体験 / 自然工作体験
- 第7回 イベント体験 / 修了式



◀ 危険予知と安全対策：グループワークで、安全について学びました。このような学習法は、参加者にとって新鮮だったようです。

▶ 農作業体験：実際に、水をひいた田んぼに入っての代掻きや圃中くわを使っての耕作などを体験しました。みなさん、とても楽しそうに作業をしていました。



▼ 自然工作：材料の木の実やタネなどの調達や間伐材の加工など、とても緻密な準備をしていることに皆さん感嘆していました。

▲ 樹林管理体験：園内での間伐作業を体験しました。後処理や漏員の手入れなど、間伐作業の一連の流れを学びました。



▼ イベント指導：一般向けのイベント「ジャガイモ掘りとときこり体験」のスタッフとして参加者への指導を体験しました。養成講座の集大成ともいえる実習でした。

▲ 特別講義：増田教授による里山についての特別講義。保全の必要性や里山公園の社会的役割について、統括的に学びました。



受講者の方の声

- ・ いろんなことを親切に教えていただき、勉強になりました。
- ・ 理論と実践という流れも良く、知的好奇心も満たされ、体を動かして自然の中にいるのは気持ち良いし、毎回とっても癒されリフレッシュできました。
- ・ 樹木の伐採作業は重労働であることを実感しました。
- ・ (自然工作について) 準備が大変ということと、作る楽しさを知りました。



コラム 「鉢ヶ峯とキノコ」

佐久間 大輔 氏（大阪市立自然史博物館 学芸員）

■キノコの観察をすると、やっぱり皆さんから出てくるのは「食べれませんか？」という質問。気持ちはよくわかるのですが、森の中のキノコの役割は食用価値ではありません。枯れたアカマツからはヒトクチタケ、広葉樹からハカワラタケ、枯れたイネ科の草からはツブカラカサタケというように、様々なキノコがそれぞれ得意とする相手を分解して土を肥やし、さらにベニタケやイグチの仲間など、また違ったキノコが養分を吸い上げて植物に渡します。森の中では、光を受けて育つ植物、それを食べて生きる動物だけが活躍しているのではなく、これらの生き物がフンをしたり、枯れたり死んだりしたあと、そこに含まれる養分をリサイクルするカビやキノコも活躍しているのです。毒きのこであろうと、とても食べ



▲コナラの枯れ木に口を開けた黒いあばた。これもキノコ？という感じだがクロコバシタケというキノコ。比較的珍しい。



▲オクヤマニガイグチ。食用にはならないキノコだが、コナラと共生している。

られない硬いきのこであろうと、それぞれ鉢ヶ峯の森の中で役割を担い、森の変化を微妙に反映させながら、養分を次の命へつないでいくのです。キノコが豊富な森は、植物が豊富な森であり、生き物の繋がりがしっかりとリサイクルの網を広げている森、といえるでしょう。

■鉢ヶ峯のキノコも環境とともに変化しています。かつて鉢ヶ峯の辺りは松茸山でした。近くの上神谷で与謝野晶子はマツタケ狩りをしたそうです。マツタケはアカマツの根に共生するキノコですが、雑木が増え落ち葉がたまった森では他のキノコに負けてしまいます。かつてと比べると、マツタケは激減しています。同じように海岸のクロマツ林からはショウロやキシメジ（シモコシ）が姿を消しています。

■堺市域にどのようなキノコがいるのか、そして何が減っているのか、その全貌はまだよくわかっていません。昨年公開された堺市のレッドリストは、堺市内で過去に記録のある243種の中から検討しました。しかし、知られずに姿を消したキノコもあるでしょう。実態はより深刻なのかも知れません。キノコを見つめることで、堺の生態系の現状が浮かんできます。



▲シロリングタケ。幹折高さ30cm近くまで育つ巨大なキノコ。ナラ・カシ類と共生し森には大切なパートナーだが高があり食用は不可。

交通案内



● 電車・バスでのご来園

泉北高速鉄道「泉ヶ丘」駅 南側2番のりば(南海バス)
鉢ヶ峯行き「公園墓地北口」下車 約1.2km
※日曜・祝日は、堺公園墓地 直行便有り
「堺市立霊堂前」下車 約500m

● 車でのご来園

阪和自動車道 堺ICより泉北ニュータウン方面へ約7.5km
公共サイン(案内板)を目印に お越しく下さい。

●●●●● お問い合わせ・申込み先 ●●●●●

堺自然ふれあいの森 森の館

〒590-0124 大阪府堺市南区畑1740番地
TEL 072-290-0800 FAX 072-290-0811
ホームページ <http://www.sakai-fureainomori.jp>

発行：堺自然ふれあいの森 OSS・EPRグループ(指定管理者)
※OSS・EPRグループは、大阪ガスセキュリティサービス株式会社・株式会社生態計画研究所の連合体です。

